

# 群馬の自然

## 特集 群馬の蝶を守る

No.170  
2013 秋

特定非営利活動法人(NPO)  
**群馬県自然保護連盟**  
URL <http://www5.wind.ne.jp/shizen/>  
e-mail shizen@dan.wind.ne.jp



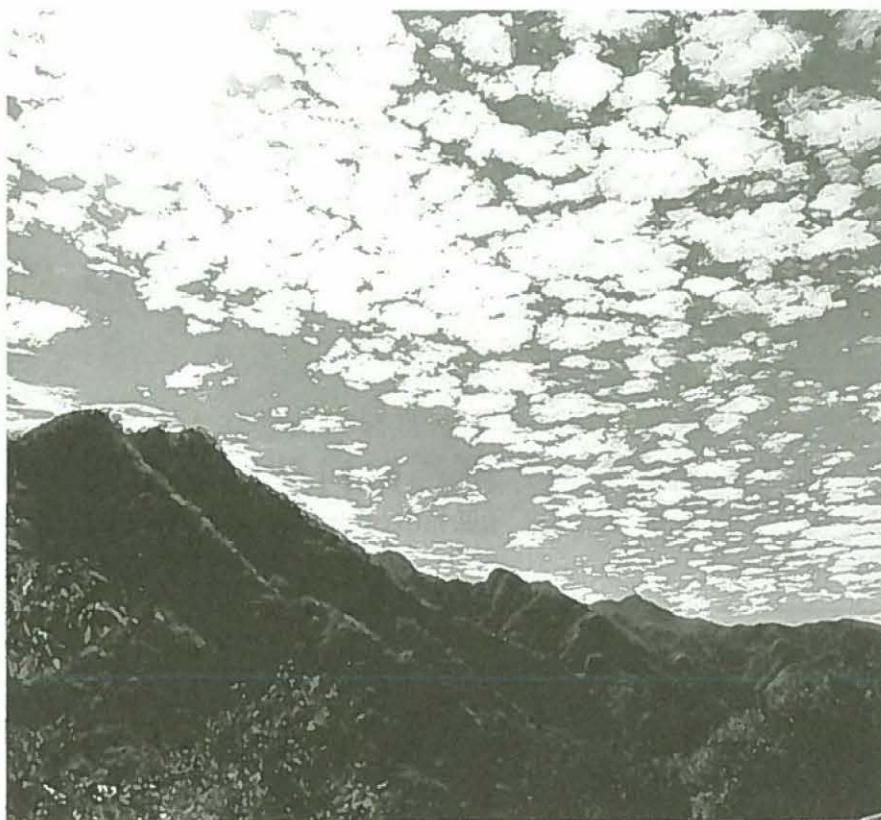
モズの早贅

## 季節のたより（4）

# 天 高 く

三井田 進

大気が澄み空が高々と見える。鳥川の谷を白い雲が次々と流れていく。



撮影 高崎市倉渕町川浦 (2011.10)

## 目 次

表 紙 モズの早賀（はやにえ）  
季節のたより（4）天高く  
特 集 群馬の蝶を守る

ヒメギフチョウの保護活動  
赤城姫の保護活動で地域の活性化  
麓までヒメギフチョウがたくさん舞う

南雲の里を目指して

小4 兵藤晴生・小4 加藤杏菜・小5  
小5 大畠陸也・小6 兵藤那奈・小6

モロコシ山整備活動  
赤城山ゴマシジミ関連調査（4）

### 行事報告

相馬山自然観察会（6月23日実施）  
大峰沼自然観察会（6月30日実施）

榛名山自然観察教室（7月14日実施）  
猫魔岳自然観察教室（7月27～28日実施）  
水源の森自然観察会（8月4日実施）

植物歳時記（63）カリガネソウ  
図鑑の内と外 植物私記（39）イヌスギナ

群馬の地質 岩版

植物をミクロで見る（11）コウキヤガラ  
残された自然の中での（162）高崎公園のササゴイ

事務局日誌（170）

表紙の説明・事務局だより  
情報提供ありがとう  
ヒバカリ

水村 聰子	佐藤正太郎	久保田庄一	3	3
三井田 進	狩野 俊輔	4	4	3
谷畑 青木	飯島 佐鳥	吉田 芹澤	西山 和子	5
里見 佐雄	佐野 静男	吉田 静代	茂木つくし	6
誠一 朱音	英雄 静代	吉田 哲夫	久保田真伍	8
11	12	9	8	8
12	13	11	9	9
21	18 17 16 14 13 12	18 17 16 14 13	11	11
24 24 23 23 21 20 20				

# 特集 群馬の蝶を守る

ヒメギフチョウの保護(渋川市立南雲小学校)

## ヒメギフチョウ保護活動

南雲の里父親クラブ初代会長 佐藤 正太郎

南雲の里父親クラブのヒメギフチョウ保護活動は、平成11年6月9日に発足し、現在で15年が経過した。発足時の趣旨は子供の為に何か父親として役立つ事が無いか、継続性のある活動は、皆の共通の話題は、地域独自の活動は何、等考え方員と相談の結果ヒメギフチョウの保護活動を学校の行事で実施している。この活動なら皆が参加できる。様々な条件が合っているということで「南雲の里父親クラブのヒメギフチョウ保護活動」に決定しました。発足当時は活動に反対意見もあり、活動が順調に進みませんでしたが、会議を重ね、具体的に活動内容が決まるごとに少しづつ活動の輪が出来てきました。

最初に取り組んだ活動は、小学生がヒメギ

フチョウの活動するためにモロコシ山に登る登山道の整備をすれば、児童、先生、父兄が喜んでくれ、活動に役立つ。ということで初年度は「登山道の整備」に決定し、10月21日に(日)に「モロコシ山整備」を参加15人で実施しました。参加した父親の皆さんで活動していくにつれ、次第に力が入り枕木や道の整備が出来て、登山道が通りやすくなり児童、先生、父兄が喜んで頂きました。

翌年は登山道周囲の草刈を参加25人で実施。

翌々年は登山道の外、ヒメギフチョウが飛びやすくなるように低木の伐採や草刈を行いました。参加者は父親の他母親も昼食作りに参加と増えて行き、活発な活動へと進展していきました。

## ヒメギフチョウを守りたい

南雲の里父親クラブ13代会長 久保田 庄一

我が子が南雲小学校に入学してから参加して早7年を経過した赤城のモロコシ山に生息しているヒメギフチョウの保護活動。娘が1年生のとき行事でモロコシ山登山に行くと聞き一緒に参加した。残念ながら、チョウの舞を見ることはできなかつたが、そこで、そのチョウが絶滅の危機に瀕していると知り、ショックを受けたのを鮮明に覚えている。そ

15年間「南雲の里父親クラブのヒメギフチョウ保護活動」が無事故で活発に活動出来たのも父親クラブ・父兄・学校の先生・赤城口一タリークラブ・赤城姫を愛する集まり・地域の皆さんのお蔭と深く感謝をしています。今後もこの保護活動が何時までも続くよう努力して行きたいと思います。

広範囲に整備保護活動が出来ています。現在

動」を通して生命尊重や郷土愛を育てる活動をしていると聞き、私もその活動へ参加を決めた。年1回の下草刈りの参加であるが、我がふるさと南雲に世界的に貴重なヒメギフチョウが生息を続けていけることを切に願っている。

娘や息子が目をきらきらせながら「自然観察会で、ヒメギフチョウが2頭飛んでたよ。保護の看板を立ててきたよ。」と話してくれた

のをよく覚えている。残念ながら、私はヒメギフチョウの舞う姿をまだ見ていない。だからこそ、いとおしく感じるのかもしれない。

この「モロコシ山整備活動（下草刈り）」を始めた南雲小父親クラブの目的の1つである「郷土への愛情と誇りを育てる。」に大いに賛同して私も草刈り鎌1つで参加しているのである。この活動は15年目に入つたそうである。参加者への負担が大きくなりすぎないのが継続している理由であろう。今後もこの活動が継続されていくことを願いたい。

私は南雲地区に生活していて、自然の豊かさに常に感動している。我が家の中には虫が飛んできたり、オニヤンマが庭を通り道として通過していくのを見る。そして、まだ目にしたことのないヒメギフチョウの生息。

我が子へ、また、後生の人たちのために世界的に貴重なヒメギフチョウをはじめとして郷土（モロコシ山）の自然を守る活動に参加していきたい。

## 赤城姫の保護活動で 地域の活性化

保護者 狩野 俊輔

今から25年前、私は赤城姫との出会いをすることになりました。赤城村に生まれ育ち、かつてヒメギフチョウがいたことは知っていますが、深山の集会所での「赤城姫を愛する集まり」のレクチャーに参加して、現在していることに衝撃を受けました。その年の春、

愛する会に入会し、赤城姫との出会いに感激して、写真とビデオに収めて歓喜しました。

3年間の海外生活で南洋呆けした自分が地元に戻つて、赤城山麓の魅力を再発見した時でした。

結婚後は暫らく地元を離れていましたが、ふるさとに戻つてから赤城姫の存在の大きさを再認識しました。南雲小は赤城姫と強い結びつきが出来ていたのです。長男が6年生の時に、霞ヶ関まで出かけて、南雲小の保護活

動の表彰式に出席して、新聞にも掲載される幸運をいただきました。あれから6年、最中心となり上級生になつた次男は今年、諸先輩方の舞い踊る組立体操をするのを楽しみにしています。

南雲小には、南雲の里「父親クラブ」があり、

平成11年に発足して以来、継続して活動しています。この組織は、これまでに存続の危機もありましたが、歴代のPTA会長が中心となり諸先輩方の協力をいただきながら事業をしてきました。今では、主たる活動はヒメギフチョウ保護のための下草刈りです。毎年行われる秋の下草刈りの際には、「父親クラブ」の実態がはつきりわかると言つても過言ではありません。

今年度、父親クラブの親睦会の折りに、新たなイベントの計画が持ち上がりました。地域の絆をさらに強めようと、これまで自治会ごとに行われていた夏のバーベキューを南雲全体でやつてみようというものです。小学校の再編問題で、危ぶまれている南雲小の存続ではありますが、初めての「南雲子ども夏祭り」を企画・実施でき、赤城姫も喜んでくれていることでしょう。保護しているはずの赤城姫に、地域が見守られているようです。

## 麓までヒメギフチョウが たくさん舞う南雲の里を目指して

渋川市立南雲小学校長 西山 和子

める環境教育につながっていると考えます。

（1年間の主な活動内容）

1、1年生にヒメギフチョウのことを教えよう（4月）

本校は、渋川の東北、標高430mに位置し、赤城山大沼から流れ出す沼尾川の渓谷南雲谷に沿つて散在する集落から成り立つ農山村を学校区としています。緑豊かで自然に恵まれた地域で、深山地区の山の周辺には、群馬県天然記念物「ヒメギフチョウ」が生息しており、住民あげて保護活動に取り組んでいます。豊かな自然を大切にし、自然とともに生活している地域です。

本校は平成7年度に文化庁より「文化財愛護活動推進方策に」委嘱されたことにより、ヒメギフチョウを保護し、絶滅の危機から救う活動を、南雲の里父親クラブ・地域住民・関係保護団体・行政と連携して継続した取り組みを行っています。この保護活動を教育課程に位置づけ、体験学習・追究活動を通して、保護する重要性を理解すると共に、児童が郷土を愛し、豊かな自然環境を守る態度と実践力を育成しています。ヒメギフチョウ保護活動は、地域の自然を守り、命の大切さを見つ

を投稿（8月）

6年生は、6年間の保護活動の集大成として、作文を寄稿する。

6、下草刈りと保護看板立て（10月）

父親クラブ、保護者、ロータリークラブ、県・市文化財保護課、保護団体の方々が山の下草を刈つてチョウの通り道をつくる。4年生は保護を訴える手作り看板を設置する。

さらに、どんぐりを拾つてきて、学校にてポットで育てる。

2、全校事前学習会（4月）

各児童が自然観察会に参加するめあてを決め、「赤城姫を愛する集まり」の先生方から、ヒメギフチョウの生態や赤城山の自然について説明をいただく。ヒメギフチョウを含めた赤城山の自然への関心を高める。

3、全校自然観察会（5月）

全校児童・保護者（希望者）による自然観察会「ヒメギフチョウに会いに行こう」を実施し、ヒメギフチョウが生息する山にて、観察活動を開始する。6年生は4年時から育ってきたドングリの苗を植樹する。

4、幼虫観察会（6月）

4年生は総合的な学習の時間にて、再度山に登り、ヒメギフチョウの幼虫を観察する。卵や幼虫の様子を自分の目で確かめてくる。

5、「赤城姫を愛する集まり」研究紀要に作文



渋川市立南雲小学校

## 7、学習発表会（11月）

4年生が、総合的な学習の時間に「ヒメギフチョウ博士になろう」も学習成果を地域交流で発表する。

ヒメギフチョウの保護活動を通して、子どもたちは人間としてたくさんのこと学んでいます。私は、南雲小の子どもたちには本物に出会わせてやりたいと思っています。紛い物ではなく、疑似体験ではなく、本物です。今の時代、頭では分かっていても、自分から考え、やつてみようとする子が少なくなっています。本物の体験に出逢えば自ずと感動が湧き、なんでだろう、不可思議だな、調べてみたい、やつてみないと興味関心が高まるものです。地域の自然の中に出て、赤城姫を愛する集まりの先生方や、群馬県自然保護連盟の先生方が一緒に歩いてくださり、どんな質問にも、専門的で正しいことを教えてくださる。まさに本物に接することができ、こんな幸せなことはありません。

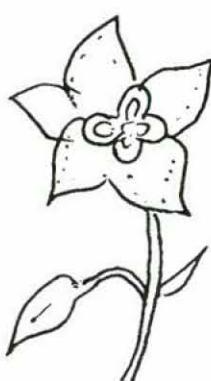
私は、この南雲小に赴任して「ウスバサイシン、カタクリ、リスが食べたクルミ」と1年生が自信を持って教えてくれた時、本当に驚きました。他校の1年生は知らないことばかり

かりです。6年生が書いた作文を読むと、どの子も「地域の自然を自分たちが守つていきます。ヒメギフチョウを守つていきたいです」と決意をきちんと述べています。6年間ヒメギフチョウ保護活動に係つてきた素直な気持ちから湧き出た言葉です。そして、陰の力となります。ヒメギフチョウを守つていきたいです」と決意をきちんと述べています。6年間ヒメギフチョウ保護活動に係つてきた素直な気持

ちから湧き出た言葉です。そして、陰の力となります。4年生が幼虫観察会の時、「ウスバサイシンの所に白い紙が棒に付いていて、よく見たら、見つけた人の名前と日付・卵の数・幼虫の数が書いてあつたよ。斜面のきつい所まで入つて調査してくれている人がいるのだなと驚いた」と話してくれました。表舞台ではなく、人知れずに地道に保護活動をしている人としての生き方に接することができたのです。

写真集『赤城姫 早春に舞う ヒメギフチョウを守る小学校』を寄贈してくださった唐沢孝一先生が次のような言葉を寄せてくれています。「赤城姫がいつまでも生息し、それを守ろうとする人々がいることは、群馬の誇りである。」

麓までヒメギフチョウが舞う南雲の里を目指して、これからも南雲小の子どもたちの思いや、保護活動を松明の火のごとくつなげていきたいと思います。



イワタバコ

## 自然観察会

小4 兵藤 晴生

5月に全校で自然観察会に行きました。ぼくのめあては、ヒメギフチョウの卵を見てくことでした。でも、ぼくは勉強したので卵のことは知っています。卵は丸くて黄緑色です。ヒメギフチョウはウスバサイシンの葉が開く前に卵を産みます。理由は、葉が開いた後に卵を産むと葉に足がひつかからないので、すぐ落ちてしまうからです。だから、ヒメギフチョウは葉が開く前に卵を産むのです。そして、卵から幼虫、幼虫からさなぎ、さなぎから成虫となつて、来年の春、またヒメギフチョウが飛ぶのです。

来年こそは、ヒメギフチョウの卵を見てみたいのです。

## ヒメギフチョウ幼虫観察会

小4 加藤 杏菜

6月に幼虫観察会に行きました。ウスバサイシンの葉のうらで幼虫が9匹かたまつている様子はとてもかわいかつたです。体には丸い黄色いもようがついていました。一緒に行つた「赤城姫を愛する集まり」の服部先生に幼虫について、いろいろ教えてもらいました。幼虫はウスバサイシンの葉を食べつくすと次の葉をさがします。目はよくみえないので、においをかいできがします。その時、元気な幼虫がどんどんさがします。弱い幼虫はその後についていけます。弱い幼虫は天てきにねらわれることができます。幼虫は天てきにねらわれないように、みんなでかたまつて体を大きく見せています。もし、おそれても安心です。なぜかというと、てきがウスバサイシンに乗ると葉がゆれ、幼虫はすぐに地面に落ちるからです。幼虫は地面の色そっくりなので、うまくまぎれることができます。

## 下草刈り

小5 茂木 つくし

このように、ヒメギフチョウの幼虫は、たくさん集まって工夫して生きているのだ

ということが分かりました。

## 看板立て

小5 大畠 陸也

ぼくたちは、二組に分かれて看板を二つ作りました。看板作りで、大変だった所は二つあります。

4年生の時私は下草刈りに参加しました。下草刈りでは、モロコシ山の環境を整えるために、まずゴミ拾いをしました。また、ドングリの苗を植える手伝いもしました。次に私たちが作った看板を立てました。

一つ目は、絵を考えることです。なぜかといふと二つアイデアがあつて、どっちを選ぶのか迷ったからです。

二つ目は色ぬりです。なぜかといふと、細かい所をぬるのが大変でした。

下草刈りでは、ドングリの苗を植えたり、シカが入らないようにネットをかけたり、看板を立てたりしました。

下草刈りでは、モロコシ山に来た人達が、ちよつとでも「ヒメギフチョウを守らなくては。」と思つてくれたら、本当にうれしいです。

これからも、ヒメギフチョウが絶めつしないように、ぼくたちもヒメギフ

の作つた看板で、モロコシ山に来た人達が、ちよつとでも「ヒメギフチョウを守らなくては。」と思つてくれたら、本当にうれしいです。

お父さんたちが、いっせいに草刈り機を使つて木を切つていて、あつという間に山がきれいになりました。

これからもヒメギフチョウを守るために、下草刈りの活動を続けて欲しいと思いました。



## どんぐりの苗を植えて

小6 兵藤 那奈

が、これからもモロコシ山の活動に参加したいと思います。

5月7日、自然観察会でモロコシ山に登りました。今年は天候が悪く、残念ながらヒメギフチョウを見る事ができませんでした。でも、登る途中にカタクリやスミレ、ウスバサイシンを見ることができ、今年も立派に咲いていることに感動しました。頂上に着きみんなでお弁当を食べました。とてもおいしかったです。その後、赤城姫を愛する会の先生に、ヒメギフチョウのことについて教えていただきました。ヒメギフチョウの生息場所や、年々どのくらい減っているかが分かりました。

そして、モロコシ山を下山する時に、南雲小の6年生と先生で、どんぐりの苗を植えました。みんながヒメギフチョウの舞うモロコシ山になつて欲しいと、杭に願いを書きました。今までの6年生が植えたどんぐりの木もたくさんありました。私達が大人になつた時、この願いのようにヒメギフチョウの舞う林になつていたらいいと思います。今年はヒメギフチョウがたくさん見られなくて残念でした

## モロコシ山の自然

小6 久保田 真伍

ぼくは、1年生の時に初めてモロコシ山に登りました。モロコシ山には、山の頂上にしか見られないチョウや植物をたくさん見ることができました。きれいでした。

4年生の時は幼虫観察会や下草刈りなどがありました。幼虫観察では、幼虫を見る事ができました。全校登山の時は、見られないで貴重な体験だつたと思います。

下草刈りでは、看板を立てました。看板を作っているところが新聞に載りました。

5年生の時には群馬テレビが取材に来ました。そしてぼくたちが調べた資料を発表しました。緊張したけど、きちんと発表できたのでよかったです。

最後に6年間を振り返って、ぼくはもつとヒメギフチョウが増えている、南雲小まで飛んで来て欲しいと思いました。これからも保護活動に携わっていきたいです。

## モロコシ山整備活動

PTA会長 角田 勝美

私は現在南雲の里、父親クラブでモロコシ山整備活動をしています。

父親クラブは、私の子供も通う南雲小の子供達の父親や、PTAのOBで結成されています。この父親クラブのモットーは

1、子育てについて考え方。

2、健やかな、逞しい南雲の子を育てる。

3、大人も子供も、地域の人や自然との関わり合いを深める。

ことを目的として活動しています。その中のひとつに、ヒメギフチョウの生息地であるモロコシ山の整備があり、毎年秋の一日、父親クラブ、南雲小児童、教職員、児童保護者、赤城姫を愛する集まり、地域の人や関係者など百人を超える人達で整備しています。

モロコシ山整備は、ヒメギフチョウが吸蜜に訪れるカタクリの花や、食草のウスバサイシンが増えるよう早朝からたくさんの方々が協力して雑草刈りや、枯死した樹木を片付けたりして環境整備を行っています。これも先

輩達から地道に受け継いだ年中行事であり、単にヒメギフチョウがこの地で増えることを願っているからです。私は少し前まではヒメギフチョウの名前すら知りませんでした。父親クラブに入り行事に参加するうちに先生や子供達から、いろいろな話を聞きだんだん興味が湧いてきました。

そのような活動の中で少し残念なことがあります。それはヒメギフチョウの捕獲や、産卵したウスバサイシンやカタクリを持去る人がいることです。南雲小の児童が手作り看板で保護を訴えていますが、被害は後を絶ちません。悲しいことです。

しかし児童や私達の保護活動を多くの人が知ることにより、理解してくれると確信してモロコシ山の整備活動を、今後も続けて行こうと思います。



ギフチョウ

## 赤城山の

### ゴマシジミ関連調査（4）

（代表）片山 満秋

#### 1. はじめに

「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）2012年改訂版」に絶滅の危険性が最も高い絶滅危惧Ⅰ類と評価され記されている（群馬県、2012）。

赤城山におけるゴマシジミの生息は

2004年まで知られていたが、それ以降の記録はない。ゴマシジミは生息地によつて変異があり、赤城山産は翅表の青藍色部が暗化している特徴のあることで知られていた。

北海道～岩手県までは主にナガボノシロワレモコウの生育する湿原に、中部以南では採草地や伐採地などのフレモコウの生える草地・草原が、中部山岳地帯では棱線部のカライトソウなどの生える草原が主な分布地である（日本チョウ類保全協会編、2012）。ところが人間社会の生活様式の変化から山の利用や手入れなどの状況が著しく変化して生息環境が悪化し、また採集圧などにより個体数が激減

して現在に至っている。

ゴマシジミの成虫は8月初旬に現れてアザミ類、ハギ類、ワレモコウなどの花から吸蜜して生活し、ナガボノシロワレモコウやワレモコウに産卵する。幼虫は花穂を餌にして育ち、秋に4歳（終齢）になつた幼虫は地上に降りてクシケアリ類にくわえられてその巣に入り、アリの幼虫や蛹を餌にして越冬し、翌年の夏に蛹化し羽化する。したがつてゴマシジミは、ワレモコウ・クシケアリ類が共存しなければ生活史は全うできず、個体群（種）の存続はできない。

赤城山においてゴマシジミの生息環境に関連する調査を2010年から継続して実施してきた。2010年は「ワレモコウ」と「シワクシケアリ」の存在確認を荒山高原・荒山・鍋割山と箕輪の桜の広場で行つた。また2011年には同じ方法で、地蔵岳と第1～第3スキーチャンプー場及び新坂平で実施した。それらの結果、いずれの場所にもワレモコウやシワクシケアリが数多く存在しており、ゴマシジミの生息環境は保たれていることが確認された（片山他、2010, 2011）。

2012年はゴマシジミ（成虫）の生息確認調査を荒山高原・荒山及び鍋割山で実施した。

悪天候であつたが、後日の晴天になされた同じ場所の調査でもゴマシジミの存在は確認されなかつた（片山他、2012）。

## 2. 調査と結果

「関連調査（4）」は2013年8月11日に、かつてゴマシジミが数多く生息していたといふ、標高約800mに広がる鍋割山の南登山口付近の草原（図1）を中心とした約0.2haにおいて、2012年と同様の方法で実施した。この場所は「赤城山のゴマシジミ関連調査（1）」として2012年に実施したワレモコウとシジミ。



図1

ワクシケアリ調査場所の下部に隣接し、鍋割山登山道の北側にある。2010年当時は放置されていたため丈が2m以上のアズマネザサや低木が著しく繁茂していた場所であつたが、2011年に刈り払いが行われており、主にススキの茂る見通しの良い草原になつていた。この草原は鍋割登山道から北側へ平行に伸びる小道に挟まれた場所であり、調査は9時30分～11時30分まで、チヨウ類に詳しい服部と成田の指導のもとに参加者8人が横1列になつて北側に向かつて歩きながら行つた。当日も猛暑が連續する晴天であり気温は30℃以上に達していたとみられる（当日、標高約100mの前橋市の最高気温は38.9℃を記録した）。

この調査でもゴマシジミは確認されなかつたが次に記すチヨウ類13種が確認された。アサギマダラ、ジャノメチヨウ、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、コチャバネセセリ、オオチャバネセセリ、キマダラセセリ、チャバネセセリ、アカシジミ、ウラミスジシジミ、エゾミドリシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ。

開花中の植物は次の15種（五十音順）であつた。オトギリソウ、キオン、キヌタソウ、クルマバナ、ゲンノショウコ、コガンピ、タケ

ニグサ、ツリガネニンジン、ナツノタムラソウ、ニガナ、ノリウツギ、ハンゴンソウ、ヤマハギ、ワレモコウ、リョウブ。

調査地で確認されたゴマシジミの生活史に必要な開花中のワレモコウは2株であり、これら開花株以外のワレモコウは確認されなかつた。この場所は長年にわたつて放置されていたためアズマネザサなどが密生して日光不足などにより、消失したものとみられる。

刈り払いが行われてシバやススキなどが生育するようになつてるので、次第にワレモコウも侵入してくると思われる。ワレモコウ以外にキオン・リョウブ・ノリウツギの花は多く見られたが、他はいずれも個体数が少なかつた。

今回の主な調査地の上部に隣接する草原はかつて（1980年代以前）は力ヤ場であり、ススキの株元にはオオナンバンギセルが群生していた。ここは2010年の調査で草丈の小さなワレモコウが数多く確認されていた。現在も草丈が約1.5mのススキを主とした草原である。この草原にも入つて調査したがゴマシジミは確認されなかつた。

今回の調査地の登山道を挟んで東側は2012年にアズマネザサなどの刈り払いが

されたが、まだ草原が発達していないので調査は行わず（図2）、登山道から伐採地の全景を見渡した。

かつてゴマシジミが数多く生育していたという場所を2012年（荒山高原、荒山南面、鍋割山）と今回の調査を行った、いずれの場合でもゴマシジミの幼虫・成虫ともに確認されなかつたことや、他に確認情報ないことが現時点では赤城山のゴマシジミはほぼ絶滅したと推測される。

ただ、ワレモコウとシワクシケアリが存在



図2

することから、他の地域からゴマシジミが飛来すれば生育は可能であり、分布地として復活する可能性はあると考えられる。

この「赤城山ゴマシジミ関連調査（4）」に

参加したのは、片山の他に服部國士・成田正嗣・関敏雄・須田けい・佐藤康弘・原島早苗・

桜井久子である。

なお、今回の調査をもって「赤城山のゴマシジミ関連調査」は終了することにした。

#### 引用文献

- 群馬県（2012）群馬県の絶滅のおそれのある野生生物動物編2012年改訂版、pp. 301  
片山満秋他（2011）赤城山のゴマシジミ  
関連調査（1）・群馬の自然、159・3・7、  
群馬県自然保護連盟  
片山満秋他（2011）赤城山のゴマシジミ  
関連調査（2）・群馬の自然、162・24・28、  
群馬県自然保護連盟  
片山満秋他（2012）赤城山のゴマシジミ  
関連調査（3）・群馬の自然、166・2・4、  
群馬県自然保護連盟  
日本チョウ類保全協会編（2012）  
フィールドガイド日本のチョウ、pp. 328、  
誠文堂新光社

6月23日実施

# 行事報告

自然観察会と保護活動  
「相馬山」に参加して  
鈴木 雅美

自然観察会と保護活動に始めて参加させて頂き、得ることも多かつたと感じると共に、主催している方々の活動には敬意を表します。

それでは、今回参加させて頂いた動機や感想について述べたいと思います。私は3年前、体が重く、内臓脂肪が溜まり、休みの日に休息しても体と精神的疲れがとれずにいました。妻のすすめもあり、15年振りに運動を始めたところ、体と心の調子が良くなつてきました。

当初は、軽いウォーキングから始め、半年経つと山に行きたいと思い、往復1時間半程度、誰でも行ける山と聞いていた地元桐生の吾妻山に行きました。

初めて行った時は、途中で何でこんなに苦しいのかと思いましたが、ようやく頂上に着き、市内を一望する景色を見たとたん疲れも吹っ飛び、その達成感を味わいました。以後鳴神山、赤城山、妙義山、太平山、乗鞍岳、月山

に行くことができ、山歩きを楽しんでいます。

山に行くなら多少山の知識があつた方が楽しいと思い、「桐生観察自然の森」の大人の山歩き講座で参加させて頂き、楽しく過ごさせて頂きました。また、赤城山ボランティア養成講座に行き、この会を知り、申込みをさせて頂きました。

群馬に住んでいながら、最近榛名山はあまり縁がなく、また、山歩きに行くのは初めてのため、楽しみにしておりました。当日好天に恵まれ、景色も良く、期待した通りとなり、また、自然観察会ではいろいろな植物を教えて頂き、指導員の方々はなぜこんなにたくさんの中植物のことがわかるのか不思議に思いました。

植物はつい花にばかり目が行きますが、葉や木全体も観ないとわからないことを教えて頂き、また、その山特有の植物もあること等参考になりましたので、植物図鑑等見ることがありませんでしたが、今後見ようと思いました。

自然保護活動（清掃活動）では、登山者のごみを捨てないという意識が広まっているせいか登山道にはごみはほとんどありませんでしたが、駐車場の近くには若干ごみがあり、意識の違いによるものと感じました。今後も参加した方が1人でも多くの人に伝えること

が重要ではないかと思い、私も伝えていきたいと同時に、このような活動に参加していきたいと思います。

「上毛三山」のことを理解することが群馬のよさを理解し、好きになることであり、植物のことを知るようになることが自然を好きになり、守ることに繋がると感じ、実践している会の方々を尊敬致します。

6月30日実施

## 大峰沼と古沼 自然観察会に参加して

小4 大平 采音

これから、自然かんさつ会に行つて、まず自然かんさつ会に出る人があつりました。

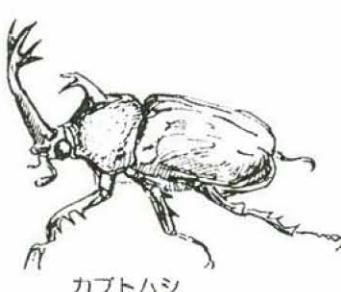
次に、山登りを始めました。山を登つている時に植物や動物などの名前を教えてくれる人が、すぐに、これは、ヤマアジサイだよと教えてくれました。あと、アカマツ、ヒトツバカエデ、ヤマグワ、サワグルミなど、いろいろ教えてもらいました。

その次に、もっと山を登つて行くと、モリアオガエルのたまごがありました。モリアオガエルのたまごは、木の上にあるときいてさ

うでした。

そのあと、大みね沼を登りました。大みね沼では、モリアオガエルがいる池の近くを歩きました。モリアオガエルのたまごはいつもあつたけど、モリアオガエルにはあえませんでした。だけど妹のあかねが、この植物はなんですかときいていたので、植物の名前を教えてくれる人が、これはホタルブクロと答

えていたので、その植物の名がわかり、勉強になりました。  
自然かんさつ会は楽しかったし、勉強にもなつたのでよかったです。また参加したいです。



## モリアオガエルにあいたい 小2 大平 百音

わたしは、土よう日に「モリアオガエルを見る会」にいきました。

さいしょは、しらない人ばかりでふんどして。でもいつてみたらやさしい人ばかりで

しんぱいじやなくなりました。せんせいが「ききたいことがあつたらいつてね。」といわれたので、わたしは、ききたいことをきいてみることにしました。いちごは赤いのにオレンジのいちごを見つけました。おいしくたべられるそうです。きゅうけいするばしょについてから、おべんとうをたべました。

しばらくしてから「ぬま」に、しゅっぱつしました。でも、モリアオガエルは見られませんでした。それでどんどんあるいていると、あつというまにもとのばしょについてしまいました。わたしは「モリアオガエル」にあえなくてざんねんだと思いました。でも、たんけんでうれしかつたです。またいきたいです。

## あわの中にオタマジヤクシ

小2 大平 朱音あかね

## 自然観察会と保護活動に参加して 榛名山、沼ノ原

畠村 誠一

おもいました。かえるはなきごえはするのに、どうしてすがたをみせないのかなどおもいました。それから、まあるいあわに入っているおたまじやくしをみました。でも、あわに入つていて、おたまじやくしはよくみえません。そのあわは、沼にある木のえだにぶらさがつっていて、たくさんありました。どうしていろいろなばしゃにあるのだろうとおもいました。そして、さいしょのぬまのところへもどつてくると、上からおっこちてきたおたまじやくしが、水のない地めんにいました。わたしがそれをみつけて沼の中にはなしてあげました。おたまじやくしは水がなければ死んでしまうからです。あとになつてよいことをしたなどおもいました。

自然観察会は2グループに分かれ、それぞれ吉田さんと亀井さんが主に説明され、その他植物、哺乳動物、野生生物、野鳥、蝶、コケ等の専門の方の説明も有りました。

沼ノ原一帯で多く見られる木のカシワとミズナラとその雑種、ズミ、マユミ、オオヤマザクラ、ミヤマザクラ、シラカンバなどで貴重な森林を成していました。

ノハナショウブ、シモツケソウ、カラマツソウなど花もたくさんの種類があり、目を楽しませてもらいました。

又、夕方から翌朝に咲くというユウスゲのレモン色の美しい花が所々に咲いていて、運良く見ることが出来ました。

時々吹く高原の風がさわやかで、暑さをホッとさせてくれました。

自然保護活動によつて外来生物の氾濫やゴミによる自然破壊のない環境造りを続け、未

当日の担当は吉田事務局長と三井田理事の二人にお世話をになりました。

今回の保護活動はいつもの清掃とは違い、外来生物オオハンゴンソウの駆除について、最初に説明が有りました。オオハンゴンソウは見ることが出来ませんでしたが、外来生物について知ることが出来ました。

平成25年7月14日、榛名山、沼ノ原の自然観察会と保護活動に参加しました。

梅雨明け以降、猛暑日が続き、参加を控えた人もいたようですが、一般参加16名と会員・説明員の方、合わせて総勢28名という、大人数となりました。

はじめはちょっと歩いていたら、お母さんが子どものころよくたべていた、まあるい紫の実が（くわの実）ありました。はじめにお母さんがたべたあとに、わたしがたべたらおいしかつたです。そして、またちょっと歩くと沼があつて、かえるのなきごえがきました。そしてこう

来につなげて行かなければならぬと痛感しました。

午後1時30分、予定よりだいぶ早く終了。参加者全員がケガもなく無事終えることが出来ました。会員の方、一般参加の方、お疲れ様でした。

7月27～28日実施

## 会津、猫魔岳

### 自然観察教室

里見 哲夫

夏の自然観察教室は平成25年7月27～28日在津・猫魔岳で実施された。数日前から東北地方にかけて、大雨情報が発令され被害もあって心配が予想されていた。実施を決定するには、事務局の並々ならぬご苦労があつたものと思われる。雨の降らないことを信じつつの出発であった。八方台登山口に到着したのは9時50分であつた。ここで出迎えてくれたのは「喪服を着た貴婦人」の異名のあるキベリタテハである。3匹位が飛び交わしていたが、幼虫はシラカバの葉を食餌とする。出発に先立ち吉田事務局長よりコースについての説明と注意事項を戴いたが、氏は運悪くドクター

のこと、説明者がいないため何となく責任を感じ取ったのであつた。雨の降らないことを願いつつ出発をする。

八方台までの磐梯ゴールドラインは無料。この周辺一帯はおそらくブナ林であったと思われるが、スギ林や草原に改変されていた。道端にはリヨウブ、ノリウツギ、サラシナショウマ、ヤマブキショウマ、シシウド、ヨツバヒヨドリ、ヤマユリ、コウゾリナ等の花が目に入る。ヤナギ類も多かつた。八方台口付近にはクロヅル（花）、ブナ、シナノキ、ウリハダカエデ、ムシカリ、オオイタヤメイゲツ等が：いよいよ登山道に入る。帰宅して一寸疑問を生じたのがオオイタヤメイゲツであつた。何故かというと本種は福島県を北限とする植物である。見直すためには標本がない。実は、この地方のハウチワカエデは葉柄が長いために余程注意して見ないと両種を間違えることがある。こんな失敗があつたことを報告しておく。猫魔岳への一帯は見事なブナ林で、滑り易い山道を登る。草本には、ツルアリドウシ、ツクバネソウ、タマガワホトトギス、マイズルソウ、ギンリュウソウ、ユキザサ、エンレイスノキ、ミネザクラ、アキグミ、ウラジロクロヅル等がある。シダ類としてはアスピカズラ、タカネヒカゲノカズラ、ホソバトウゲシバ、ミヤマヘビノネゴザ等を見る。目的の140mの猫魔岳に到着。大きな岩を背景に夫々

ハハコ、ツルリンドウ、シオデ、トンボソウ、コオニユリ等。シダ類にはコケシノブ、シノブカグマ、シシガシラ、ホソバナライシダ、シラネワラビ、オオバシヨリマ、ホソバトウゲシバ、ハクモウイノデ等が。木本には、ムラサキヤシオツツジ、タムシバ、ヒメアオキ、ミヤマアオダモ、オオバクロモジ、テツカエデ、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、カジカエデ、ウリハダカエデ、コミネカエデ、アカイタヤ、ミネカエデ、オオモミジ、ツノハシバミ、ホウノキ、エゾアジサイ、ツルアジサイ、マルバマンサク、ズミ、ケカマツカ、アズキナシ、ナナカマド、ウラジロクロヅル、ツタウル、ヤマブドウ、マタタビ、ミヤママタタビ、オオカメノキ、ケナシヤブデマリ、ガマズミ、タニウツギ、コシアブラ、エゾユズリハ等が。猫魔岳近くでブナの実の沢山ついているのを見れる。また、サラサドウタン、コヨウラクツジ、ウラジロヨウラク、ミヤマホツツジ、クロマメノキ、アカモノ、シラタマノキ、ウツギ、ウラジロヨウラク、ミヤマホツツジ、スノキ、ミネザクラ、アキグミ、ウラジロクルソウ等がある。シダ類としてはアスピカズラ、タカネヒカゲノカズラ、ホソバトウゲシバ、ミヤマヘビノネゴザ等を見る。目的の140

が写真撮影。展望もよく下の景色を堪能する。11時45分、昼食地は雄国小屋とのこと急ぎ下る。山頂より少し降りたところに一等三角点があつた。ここよりは急斜面で濡れていて滑る。ふと見るとシシガシラとミヤマシシガシラが並んで生えていた。ミヤマシシガシラは葉柄、中肋にかけて紫色をしているので区別することは容易であるが、経験度がものをいう。また、簡単に見られるシダではない。周辺の草本としてはズダヤクシユ、ヤグルマソウ、カメバヒキオコシ、ショウジヨウバカマ、ヤマブキシヨウマ、サラシナショウマ、チゴユリ、ミヤマナルコユリ、イチヤクソウ等があつた。木本ではハイヌガヤ、ツルシキミ、レンゲツツジ等。道はぬかるみが多く、沢を渡るのも大変だつた。雄国沼に指しかかる所にはミズナラ、ミヤマナラ、レンゲツツジ、ズミ、アキグミやノギラン、ウツボグサ、ヤマハハコ、クガイソウ、タチアザミ、タチギボウシ等の草本を見る。雄国沼での湿原植物は全く見られず、道を挟んだ左側の斜面にはクララの花、コバイケイソウ、メマツヨイグサ等があるが草が刈られていて多くを記録できなかつた。雄国小屋に到着は1時50分、ここでようやく昼食をとる。小屋の裏側に一面

ダイコンソウが咲いていた。ふと見ると足の調子が良くない吉田事務局長が来ていたのに、はいささか驚いた。雷鳴が激しく心配で迎えに出向いたとのこと。最終コースへの登山道の荒れが酷いという。所要時間は1時間余とか説明を受けるが、そう簡単でないことを知る。雨具をつけて出発するが、すぐさまぬかる道の連続であつた。粘土質の道は滑り易く、危険を感じつつ足を進める。樹林下はシダが優占していた。ぬかる道は危険で、メモを取りながらの歩行で大変だつた。この道に沿つての主なシダは、ヤマドリゼンマイ、ホソバトウゲシバ、ゼンマイ、ヤマソテツ、シノブカグマ、クジヤクシダ、ワラビ、リョウメンシダ、サトメシダ、ヤマイヌワラビ、ヘビノネゴザ、ヤブソテツ、キヨタキシダ、オシダ、シラネワラビ、ミヤマベニシダ、オクマワラビ、ヤマイタチシダ、ミゾシダ、ホソバナライシダ、イヌガンソク、ツヤナシイノデ、サカゲイノデ、ホソイノデ、ミヤマクマワラビ、ジュウモンジシダ、シシガシラ、フモトシケシダ等を記録するが、もっと精査すれば数を増すであろう。また、ブナの巨木を見る。目通り直徑1m30近いもので、この森の主であろう。雨が気

にかかる状態になつた時バスに乗ることが出来た。車中で吉田事務局長の足の状態を心配すると共に、その労を皆が勞つたことと思う。「山形屋旅館」での入浴は快適。ぐつすりと一夜を明かすことが出来た。

翌朝、目を覚ますと早くも谷煙、下田の両氏は既に探鳥のため外出していた。しばらくして窓より外を見ると、前の旅館の入口に枝垂れている木があるので気付く。神宮氏はケヤキだろうという。狩野、神宮両氏とともに確認に出掛ける。案の定、シダレケヤキであった。朝食迄の時間を散策する。下の川沿いに、サワシバ、アカシデの果実を見る。トチノキ、クマノミズキ、ヤマモミジ、ベニイタヤ、川面に覆い被さるのはケンポナシである。株床にはヒメアオキが群れて、付近にはオシダ、オクマワラビ、リョウメンシダ、ジユウモソバナライシダ、コタニワタリやクジヤクシダが群生していた。ヒメアオキは、



会津西街道 大内宿

## 赤城山・水源の森

### 自然観察会に参加して

芹澤 静代

日本海気候の多雪地帯に自生する植物で、丈は短く直立しないで斜上し、葉の小さい一種である。橋の下を覗くと、オオイタドリ、ヨシが群生していた。道端にはヨウシユヤマゴボウの大きな株、ツルマンネングサ、クルマバザクロソウを見る。朝食前の一時を散策して楽しんだ。

帰途に立ち寄った太内宿では、水田脇にコウヤワラビが群生、ハンゴウソウが咲いていた。今回も心配していた大雨も避けられ、一同喜び合いながら事務局のご苦労に感謝し解散した。

#### 磐梯の古き伝説猫魔岳

悪路しおぎて頂ききわむ

期待せし湿原乏し沼べりに

タチギボウシとタチアザミ見る

雄国小屋人目のつかぬ裏側に

ダイコンソウの咲き誇りたる

この森の主と思いし巨木あり

樹勢のさまを驚き見入る

予想より厳しき道を踏破する

事故なきことを喜びあいて

花咲かぬシダを好みてメモをとる

我が人生もシダの如くに

「すごい！」目前には大きな二匹のヒキガエルの腹部。しかも一方は見事な豹柄。捕えられたその滑稽な姿からは、「参った」という声が聞こえてきそうでした。

今回初めて参加したのは、赤城水源の森の親子自然観察。自然に少し触れる程度のイベントだろうと思つていたら、初っ端から「おや？」整備されていない豊かな自然の中でも

事になりました。

まずは水中の生物探しです。網を片手に小川に入り、石の下、葉っぱの影をすくつてトイレに入れる。すると、何もないと思つていた水中にたくさんの生物がいるではありませんか。皆が次々とトレイに入れ、先生が生物ごとに分類されると、覗き込む子ども達。サンショウウオ、トビゲラ、ヤゴ、ハリガネムシ、

植物。自生の植物を観察しながらの一時。子ども達は獣道を行きたかったようですが、まいにくの空模様で諦めざるを得ませんでした。

しかし、なんと楽しい一日だったことでしょう。川に山。豊かな自然の中で水中や陸の生物に出会い、たくさんの専門の先生から、その一つ一つを説明して頂く。そんな贅沢な時間をお過ごす事ができたのです。子ども以上好奇心と行動力で導いて下さった先生方には、知ったのです。

次に昆虫です。まずは学校形式にフリップを使い、昆虫の体について勉強しました。クイズを交えた話は、小学一年生にもわかりやすかつたようです。他には、かわねずみの話に、なんと巨大芋虫の実物まで。芋虫は鮮やかな黄緑色で、節々に赤、青、黄等の色があり、息子はまるで虹色みたいだと家に持ち帰る程、気に入つてしましました。勉強の次は虫捕りです。網を握りしめ勇んで出発したのですが、程無く雨が降り出し、近くの東屋に避難する事になりました。

雨が止むまでの間、クワガタや蜂の実物、植物を見ながら、いろいろな話をして頂きました。熊の話も面白く、静かに耳を傾けた、心地よい時間でした。

雨が上がるとなあ、山へ散策です。次は植物。自生の植物を観察しながらの一時。子ども達は獣道を行きたかったようですが、まいにくの空模様で諦めざるを得ませんでした。

しかし、なんと楽しい一日だったことでしょう。川に山。豊かな自然の中で水中や陸の生物に出会い、たくさんの専門の先生から、その一つ一つを説明して頂く。そんな贅沢な時間をお過ごす事ができたのです。子ども以上好奇心と行動力で導いて下さった先生方には、知ったのです。

感謝の一言です。「大丈夫。もっと先に行つてごらん。」と先生方の声。事前の下見で危険の無い事を確認されているとは言え、過保護な程、危険やケガから子どもを遠ざけようとする風潮の中、探検を後押しして下さる姿勢はとても嬉しいものでした。

水源の森は利用できない程の草に覆われて刈りをして下さった方々、先生方、素敵な時間ありがとうございました。帰宅して早々、図鑑を開いていた子ども達と共に、また来年、今から楽しみにしています。

## 植物歳時記 (63)

### カリガネソウ(雁草)

吉田 龍司

雁帰るカリガネソウを見て

龍司

カリガネソウの花には8月中旬、赤城山水源の森自然観察会で、久しぶりに再会した。開花した花の姿が特異で誰でも一度お目にかかれば忘れられない花のひとつである。別名を帆掛草<sup>はかけそう</sup>と呼び、全国の丘陵帯や山地帯の溪流沿いや、日陰の林縁に生える大型の多年草

で、夏には草丈80cm前後に生長する。対生する葉は広卵形で、大きさの揃つた鋸歯がある。茎は切口が四角で、多くの枝を分けるのが特徴といえる。花期は晩夏から秋にかけて、葉腋から集散花序を伸ばし、青紫色のランのような美しい花を咲かせる。5枚の花弁は凹形で縁が襞状になり、上に2枚、下左右へ各1枚ずつ大きく広がり、下側の花弁は舌状で紋様がある。花柱と雄蕊は長さ3cm余りで弓形に曲がり、花の上に伸びてその先が花の手前に回り込むように垂れる。

花粉を媒介する虫は花に訪れると、左右の花弁に脚をかけるように留まるが、花は虫の重みが加わると花序が垂れ下がり、首を擡げるように角度を変えて虫の背中と花柱が接触する。受粉が成立する仕掛けになつていて。学名はカリオブテリス・ディウアリカータ。

クマツヅラ

科、カリガネ

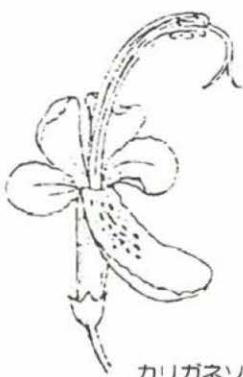
ソウ属に分類

されるが、最

近の新しい

『APG 分類

体系(被子植



カリガネソウ

物の分類体系に、DNA解析による系統学手法が導入された)では、シソ科に分類されるらしい。従来の分類法はリンネの自然体系から生物を科、属といった分類体系だったので、その分類学に慣れ親しんでいた私には何ともややこしく、中々馴染めそうにない。APG分類学は近い将来、多くの図鑑や教科書に取り入れられ書き換えられていくようである。

今までの分類学による属名のカブオリテリスとはギリシャ語の堅果+翼で「実に翼状のものがついている」が語源である。種小名のディウアリカータは「広く開いた」の意で、5枚の花弁のうち側弁と舌状下弁から名付けられたと思われる。冒頭に花形の特異さと鮮やかな紫色が相まって一度見れば忘れ難い花と書いた。しかしこの様に愛らしい花で、ながら人から嫌われる要素を持っていることは悲しい。その一つが夏から秋が近づくと、一種独特の臭気を放つからである。クロユリに似たような匂いはどうも私には戴けない。

クマツヅラ科の植物は悪臭を持つものが多いので知られるが、カリガネソウはその最たるもの一つであるようだ。

カリガネソウは古くから知られている植物であるが、誕生花は定められていない。

花言葉は「実質である」と記載がある。

カリガネソウの方言は「日本植物方言集成」には「ごーけしば（房州）・つちくさぎ（和歌山・日高）の2つが採録されている。『ごーけしば』は「豪氣柴」。『つちくさぎ』は、『土臭木』と読み解いてみたが如何であろうか。

方言はその土地の人々にしか伺え知れないものがあり、まったく意味が違う場合があつたとして中々手強いものである。が、いろいろ想像を巡らし、方言や語源の意味に挑戦してみると、別な意味で楽しい創造の世界に浸れるのではないだろうか。その様な遊びの世界に楽しみを感じる今日この頃である。

## 図鑑の内と外

### 植物私記③9 イヌスギナ

佐鳥 英雄

前回に「このつづきは次号」ということでしたので、そのことを少し。

朝日新聞(12・12・22)に「子どもの本棚・クリスマス特集」という記事がありました。「もうすぐクリスマス。家族で過ごす機会が増えこの季節、詩人の谷川俊太郎さんに、平和の大切さを子どもに伝えるには、どうしたら

いいかを聞きました。(…以下略)」というリードがあつて、更に「戦争の種、誰にでも」という見出しがあつて、谷川さんの感想が記されていました。谷川さんは私より二歳上。デビュー作に「二十億光年の孤独」があり、以後の活躍は言うまでもありません。私は熱心な読者ではありませんが、ときどきは読んでいる詩人〉の一人です。私はいまここを書いているのが、13・8・8。谷川さんの感想をお聞きしてもう半年以上の日が流れたのだな驚くのですが、それよりも何よりも私がこの記事をおそらく一生忘れられなくなりそうで、ここに持ち出しているのは、この記事の中の一文です。「戦争は決してなくならないと思います」私はこの一文を読んだとき、誰かの科白ではありませんが、「それを言つちゃアおしまいよ」を思い出しました。確かに、人類の歴史は猫灰だらけ以上に戦争だらけです。人はこの世に戦争しにやつてくるのか…と見紛うばかりです。だから戦争はなくならない。確かに一つの認識ですけれども、人は〈戦争はなくならない〉と呟いたとたんに、戦争準備論者になつてゐるのです。災害に備えるのは当たり前のことだからです。こういう論法の大政治家…もどきがうじやうじやしている

ドがあつて、過ちは二度とくり返しませんからなどといふことばなんか噴飯ものなんでしょう。私が書いていました。谷川さんは私より二歳上。デビュー作に「二十億光年の孤独」があり、以後の活躍は言うまでもありません。私は熱心な読者ではありませんが、ときどきは読んでいる詩人〉の一人です。私はいまここを書いているのが、13・7・13。「原発事故があつて、私のまわりだけでなく、多くの都民は原発いらないって思つてたはずよ。でも、原発推進の石原さんの圧勝でしょ。脱原発とか言つても、やっぱりみんな石原さんみたいなの好きなんじやんつて思つたのよ」

そして、13・7・25、同紙に今度は森達也さん。NRA(全米ライフル協会)の弁明。「銃を持つ悪人の行為を止められるのは銃を持つ善人だけだ」…を紹介し、これを読んで頭の回路がどうかしていると思う人もいるはずだ。でも実のところこの思想と論理は、世界のスタンダードでもある」とおっしゃっています。だから、憲法9条は「誇り高き瘦せ我慢」(新聞社がつけた見出しか)であると。私は、若い人に、こういう確固とした思想を持つ人が登場していることを嬉しく思います。

私もずっと考えてきましたが、9条は今の人類の認識段階では、かなり高すぎる理想でしたし、今もそうです。だから、理想を低くする、もつと進めて取りやめるという理屈もあるでしょう。ましてや、この理想に対する世界の応援が少ない。北朝鮮も中国も日本の理想をちつとも大事にしてくれない。いつ、どこからこうなってきたのかはここでは論じませんが、すでに日本を含めて、近隣諸国は軍拡競争になっています。私はそういう危機感からつい筆を執っているのです。静かに思えば、谷川さんも私に、そこだけ抜き書きされるのは不本意かもしれません。ただ、私は母親から、小さいときに、「理想は高く」と教わってきたので、理想をせせら笑う人々に決して妥協はしないつもりです。そして私は考えます。「君が御稟威は天照らす」（東京音頭）がウソだったように、現人神が世界のスタンダードになることはなかつたと。歴史に逆行することにより未来はないだろうと。

イヌスギナのことを書きます。

私が55歳頃のこと。同僚と雑談中、「スギナにも草の天辺に胞子をつけるものがあるんだよ」一人がふと呟きました。イヌスギナのことですが、植物に関してはただの人と思つて

いたのでびっくりしたのです。私はその時までも、それからずつと、今年の4・23までも、実物は見たことがありませんでした。ですから、いつか私の中で、イヌスギナな宿題、宿題となっていました。私はスギナをとくに湿地のスギナを見ること、もしやイヌスギナではないかなど、目を凝らしつづけてきました。〈群馬県植物記〉では、「野反湖・尾瀬・館林市。やや普通」とあります。みんなちょっと違います。どちらの植物では、「スギナに似ているから確認された産地は少ないと、低地帯から谷津田周辺や湿地に生育していると思われる」として、標本として6ヶ所を挙げています。そこに足利市迫間町も入っています。戦場ヶ原は遠いし広いし。迫間なら20キロ足らずか。でも水先案内人がいないと、桂第日は過ぎてゆきました。そこへ根岸（恒雄）さんという強力な案内人の登場です。根岸さんは足利市在住であるだけではなく、その熱心な学習から、すでに足利市方面では植物観察の指導者の一人です。そして、私たちの鳴神塾の会員であります。イヌスギナを見た旨私は伝えておきました。〈迫間湿地にあります〉とのこと。

かくて今年の春、私の記録が曖昧なのです

が、「迫間」にあります第一報。確か足利方面のシダの調査の折、古谷（航平）さんと3人で見たのだと思います。そして4・23、「胞子穂をつけています」という情報を得ていたので、古谷夫妻、清水、下城、私の5人で行きました。根岸さんの案内です。私は迫間湿原などと呼んだりしていましたが、正しくはハサマシツチ。原というほどもう広くはありません。入るとすぐイヌスギナたち。もう見ていましたが、胞子穂を持つているのは初見です。嬉しい。それにしても余りに数が少なくて、茎を摘むのもできません。ジャヤナギ他、このヤナギ類のこと、トネハナヤスリやヒメナミキなど。タチスミレはもう消えてしまつたのかなどと。小さな湿地は間もなく終ります。「向こうの方まであります」と根岸さん。田の広がる道へ。ところがそこからイヌスギナは俄然大量となり、畔を埋め尽して行きました。「向こうの方まであります」と根岸さん。何10万本にもなるようでした。「いくつか大きなシャベルを持ってこよう。桐生でもいつでも見られるようになら」と私は思つていました。ゴキヅルなども湿地には少し。これも育てたいのですが、このような貧しさではタネ一粒でも頂くわけには行きません。広場で、皆で持ち寄った昼食をすませ、帰途につきました。

湿地を通ると大きなエゾエノキ。「たしか実が黒くなるんです」などと私。とにかく私には宿題が上首尾に終つて、万歳三唱というところでした。余談ですが、この2日か3日後、用事で古谷さんに電話しました、「あのイヌスギナね：農薬でひどい状況となつてますよ」けれどもスギナは強い。多分イヌスギナも：と私。ガンバレ：としか言いようがありませんでした。

日はどんどん飛んで、5・14。下城・清水・私の3人は桐生市梅田町の穴切にいました。バッコヤナギを探しに来たのですが、ありそ

うもなく、終りにしようとしていました。うもなく、終りにしようとしていました。沢の出口で清水さん、「変なナズナが」見ると、栄養葉の先に穂をつけています。小さなU字溝と舗道の隙間にほんの数本。イヌスギナではなくスギナです。ハテサテ、こんなおかしながらあるのか：。奇怪でしたが、帰

つて調べるよりありません。写真を撮つたり、1つ2つ押し葉用に採つたり。

帰宅して調べますと、保育社の図鑑（原色日本半齒植物図鑑）で、スギナの項、「春すぎてから、主軸の先に胞子囊穂をつけた栄養茎をみることがある。これをミモチスギナ f.

campestre というが、この性質は固定したものではなく、何かのはずみに現れる一時的の現象であろう」とありました。このことだと、合点が行くのでした。

その日のうちか翌日か、清水さんより電話があり、〈牧野図鑑〉にミモチスギナ：とあるとのこと。有名なことのようでした。群馬県でどなたか指摘されているかどうか。〈どちらの植物〉には、南那須町産の標本がある由の記載がありますが、〈群馬県植物記〉にミモチスギナの記述はありません。

### 「編集からのお願い」

○ 特集は「群馬の蝶を守る」です。連盟会員の関わりもある南雲小学校のヒメギフチョウ保護活動を紹介しました。次号特集は「ぐんま百名山の自然XII 西毛の里山」の予定です。対象は庚申山・牛伏山・桜山・崇台山・天狗山の五山です。原稿締め切りは12月15日です。自然保護に関するご意見や観察記録もお待ちしています。事務所宛にお送り下さい。

○ 編集の都合で一作品の分量は原稿用紙五枚までとさせていただきます。ご協力お願いします。

## 群馬の地質

### 岩版

飯島 静男

ハガキ大の白い板状の石が、縄文時代晚期の遺跡から出土する。角が取れて丸みを帯びていて、表面には土器の文様のようなものが刻まれている。護符と考えられているそうだ。石材は白色細粒の凝灰岩で、チョークか石膏ボードの質感がある。

T君は利根・沼田地域で、同種の凝灰岩が利根川の礫にあり、下川田付近の川岸には白色凝灰岩層の露頭があることも発見した。岩版の原石はその露頭などに由来する川原石と考えた。ここでもP社に分析を依頼して、遺物の岩版も白い川原石も共に斜ブチロール沸石からなることを明らかにした。

石棒の原石产地について、ぼくは利根や吾妻方面には沸石岩は期待できないと言つたが、T君は自らの踏査で、現に露頭の存在を確認していたので、イイジマの狭い経験による一般論はどうてい受け入れられなかつたのだ。旧説に対しても稼いだ新事実でもつて反論する。なんだかお株を奪われた心地です。

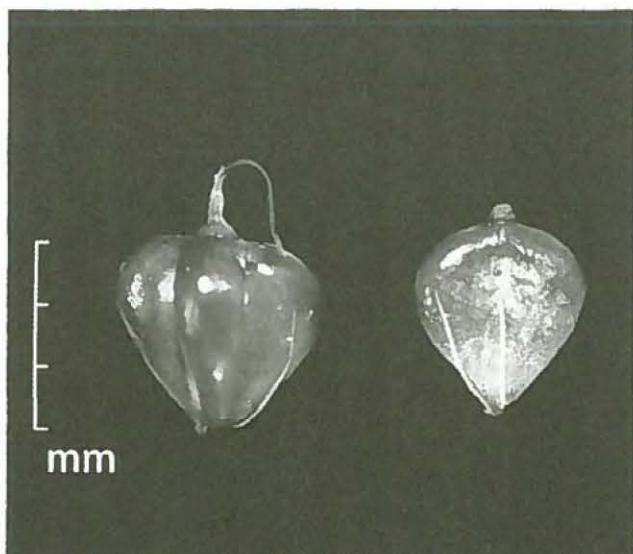
## 植物をミニクロで見る（11）

### コウキヤガラ

青木 雅夫



コウキヤガラ



コウキヤガラ種子

群馬県ではないが、埼玉県加須市柏戸とい  
う渡良瀬遊水地の近くで見慣れぬものを見つ  
けた。田植えを終えた頃の6月15日、田んぼ  
の脇を通り過ぎたときにウキヤガラに似てい  
るが、丈が小さく40～50cmほどに伸びた早苗  
と同じように競争しているようであった。た  
くさん生えている。稻の方の成長は他の田ん

ぼと比べると明らかに成長障害を起こしてい  
る。引っこ抜いてみたら、地下にはクログアイ  
のような球根がいくつもあつた。調べてみると、  
コウキヤガラで海岸性のウキヤガラ属だ  
そうだ。他のカヤツリイグサと違つて種子繁  
殖よりも栄養繁殖をしているらしく、不念の  
種子が多くなかなかきちんとした種子を見る  
ことは難しい。稻刈りも済んだ9月、集めた種  
子が写真の2個である。稻を栽培する立場か  
らすると強害草なのだろう。瘦果についてい  
る針状花被片の長さがポイントである。右の  
瘦果が普通の形である。左のは奇形であろう。

## 残された自然の中で（162）

### 高崎公園のササゴイ

谷畑 藤男

ササゴイは渡来するとすぐ巣を形成し、若  
葉が茂る営巣木の樹頂付近に営巣する。今年  
は5ペアが渡来し、公園内のケヤキ（A・B）、  
サクラ（S）そしてお堀のエノキ（E1・E2）  
に営巣した。営巣木は樹高12～15mで、樹頂  
付近に細い枝を組み、直径30cmほどの簡単な  
皿巣を作る。この頃「グアー」という繁殖期  
特有の声でよく鳴く。営巣木はそれぞれ數十  
m離れているが、ケヤキAには2つの巣があつ  
た。産卵数は3～5個で5月下旬から6月上  
旬に雛が孵化する。巣の下が地面の場合、水  
色の卵殻が落下し、孵化日が正確にわかる。

高崎公園及び周辺は市街地でありながら巨  
樹巨木も多く、ササゴイの繁殖地になつてい  
る。以前はお堀堤のベルト状緑地で繁殖  
(2004 谷畑) していたが、最近は公園内  
でも営巣している。ササゴイは4月下旬、東  
南アジアより渡来する。8年間の渡来日は表  
1、繁殖期の概要(2013)は表2のとお  
りである。

ササゴイは渡来するとすぐ巣を形成し、若

葉が茂る営巣木の樹頂付近に営巣する。今年  
は5ペアが渡来し、公園内のケヤキ（A・B）、  
サクラ（S）そしてお堀のエノキ（E1・E2）  
に営巣した。営巣木は樹高12～15mで、樹頂  
付近に細い枝を組み、直径30cmほどの簡単な  
皿巣を作る。この頃「グアー」という繁殖期  
特有の声でよく鳴く。営巣木はそれぞれ數十  
m離れているが、ケヤキAには2つの巣があつ  
た。産卵数は3～5個で5月下旬から6月上  
旬に雛が孵化する。巣の下が地面の場合、水  
色の卵殻が落下し、孵化日が正確にわかる。

親鳥は抱卵に引き続き、巣内で抱雛し、もう1羽の親鳥が付近の川で小魚を捕らえ雛に給餌する。巣の下に落下した魚はほとんどオイカワであった。約一週間で雛は巣を離れる。まだ飛べないが、営巣木内の枝を渡り歩き、時々巣に戻る。両親が餌を運ぶようになると、雛は急速に成長する。離巣直後の親が不在になるとこの時期は外敵に襲われやすい。6月19日、サクラ巣をハシブトガラスが襲撃。離巣後の雛4羽が全滅した。巣の下には雛の羽毛が散乱し、切斷された頭部が落ちていた。サクラは他の樹種に比べ、枝や葉がまばらで、襲撃されやすい。カラス以外にもオオタカの攻撃(2012.6.20)や台風による巣の落下(2012.8.2)など危険は多い。飛翔力がつくと幼鳥は営巣木外へ行動範囲を広げる。6月下旬、公園池やお堀の水辺で小魚やトンボを追う幼鳥の姿を見る。

6月30日、エノキのササゴイが巣付近に、新しい巣を作り始めた。数日後、抱卵中の新巣付近には巣立つばかりの幼鳥3羽が並んでいる。このペアは巣立ち雛の給餌しながら、2回目の産卵・抱卵をスタートさせた。雌雄で抱卵と給餌の役割を分担することにより、限られた繁殖時期が有効に使われる。高崎公



ササゴイ幼鳥 (2013.8.24)

表1 高崎公園周辺におけるササゴイ初認日

年月日 (天気)	備 考
2006 4月26日(晴れ)	
2007 4月27日(晴れ)	
2008 4月26日(曇り)	
2009 4月21日(曇り)	公園内ケヤキで 1羽確認「グラー」と鳴く(6:00)
2010 4月20日(曇り)	公園内ケヤキで 1羽確認(5:30)
2011 4月26日(曇り)	
2012 4月26日(曇り)	公園で 2羽確認「グラー」と鳴く(7:00)
2013 4月23日(曇り)	公園内ケヤキで 2羽確認(14:00)

#### 参考文献

2004 谷畠藤男 ササゴイの季節

群馬の自然  
131号

園付近では今年2ペアが2日目の繁殖を成功させた。盛夏の8月13日、お堀の堤斜面や水辺の石垣で、8羽の幼鳥が餌採りや飛翔訓練をする。まだ親からの給餌もあるが、自立の道を踏み出している。8月27日、水辺に幼鳥3羽。1羽が水面に嘴を突き刺し、小魚を捕らえた。人影に気づくと斜面のツバキの茂みに逃げ込む危機回避の行動も身につけた。28日、同所に幼鳥2羽。29日14時30分、お堀の水面に伸びたサクラ枝に幼鳥1羽。人の気配

を感じ、すぐツツジの茂みに隠れる。30日、ササゴイ幼鳥は公園付近から姿を消した。4月下旬から続いたササゴイの子育ては終了した。猛暑はかけり、お堀の水面には、色づいたサクラの落葉が浮かんでいた。



## ○表紙の説明 ○

### モズ(百舌鳥)

スズメ目モズ科、モズ属の鳥類。日本、朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。全長20cm位で開けた森林や林縁、河畔林、農耕地に生息する。食性は動物食で昆虫から爬虫類、小型哺乳類や鳥類まで樹上などの高所から地表の獲物を探して襲いかかり、再び樹上に戻り捕えた獲物を食べる。

繁殖形態は卵生。様々な鳥の鳴き声を真似た複雑な囁きを行うことが和名の由来。モズは捕えた獲物を木の枝等に突き刺す行為を行う。秋に初めての獲物を生贊として奉げたという言伝えから「モズの早贊」といわれた。早贊自体の理由は不明である。

### 事務局だより

今年の猛暑は各地で記録を更新し、集中豪雨、竜巻被害、台風18号による洪水等で自然の猛威を歓つというほどに思い知られた。

それに反し夏の自然観察教室は盛況で、猫魔ヶ岳から雄国湿原(福島)一泊行事は多くの成果があった。観察記録が掲載されているのでご覧下さい。残り少ない観察会も希望者が

殺到してます。お早めにお申込下さい。

### 新会員紹介(敬称略)

服部みち子様(前橋市)

町田守様(前橋市)

塩川文子様(富岡市)

### 会費納入のお願い

会計年度は4月1日から翌年3月31日です。皆様とともに自然保護活動の輪を広げたいと念じています。振替用紙を同封しました。ご入金お願いいたします。

### 情報提供ありがとうございます

ヒバカリ(トカゲ目ナミヘビ科)

提供者..関敏雄(会員)

採集地..渋川市金井(吾妻川河畔イクリングロード)

採集日..2013年9月16日午前11時20分

特記..全長47.3cm、体重20.2g

頸部には斜めに黄白色の筋模様、胴側方には黒点があり、本種の識別点となる。測定/金井賢一郎

群馬県評価..なし

参考文献..日本の両生類・爬虫類 小学館

## 群馬の自然 170号

発行日 平成25年10月

発行人 NPO群馬県自然保護連盟

編集人 谷畠藤男

発行所 群馬県自然保護連盟事務所

〒370-0046

高崎市江木町610-10

電話 027-324-5706

携帯 090-4833-5789

振替 00320-6-13239

会費 2,000円(年間)

